

令和7年度活動計画・予算決まる 財団の定期理事会開催



令和7年度活動計画と収支予算を審議する理事会が4月21日に開催され、当日出席された役員(理事・監事)の賛成により承認されました。活動計画の概要についてご報告いたします。

なお、収支予算についてはホームページに掲載しておりますのでご覧下さい。

<https://www.niigata-award.jp/contents/about/index.html>

令和7年度活動計画 (令和7年5月1日～令和8年4月30日)

令和7年度は、第9回食の新潟国際賞の推薦募集事業と、受賞候補者の選考活動を行い、公募活動を通じて財団と国際賞について、国内外への広報活動を積極的に行い、認知度アップを図る。

佐野藤三郎氏の新潟市名誉市民称号受章をうけ、関係団体と共同で設立した「佐野藤三郎顕彰委員会」を通じて佐野氏の認知を広め、顕彰活動を行うとともに今後の新潟の情報発信や発展につなげる。

また、財団のネットワークを活かし行政や産業界、大学研究機関との連携により、食品産業や農業をテーマにしたシンポジウムや講演会を開催し、食に関する最新の情報の収集と提供に努める。

特に若者の食と農分野への関心を深め、財団とのネットワークの構築を図るために、学生ビジョンコンテストを開催し新潟県内の食品産業や農業の振興と人材育成につなげる。

1. 理事会・評議員会の開催

- | | | | |
|-----------|--------|--------|---------|
| (1)理事会開催 | 定時理事会 | 令和7年6月 | 新潟市内で開催 |
| | 定時理事会 | 令和8年4月 | 新潟市内で開催 |
| (2)評議員会開催 | 定時評議員会 | 令和7年7月 | 新潟市内で開催 |

2. 「第9回食の新潟国際賞」の推薦募集及び選考事業

「第9回食の新潟国際賞」(令和8年11月表彰式予定)の推薦募集活動や選考委員会を設置し受賞候補者の選考作業を行う。

(1)国際賞推薦募集活動

①第9回国際賞推薦要項の決定

理事会(令和7年6月)において国際賞推薦要項を決定する。

②推薦依頼・推薦募集事業 (令和7年9月～同年12月末)

受賞候補者の推薦依頼を下記の国内外の機関・団体、個人などに依頼するとともにホームページやメールにて広く推薦を呼びかける。



令和7年度活動計画（令和7年5月1日～令和8年4月30日）

(2)選考事業(令和8年1月～令和8年5月)

①国際賞選考委員会の設置及び選考作業

イ. 第9回食の新潟国際賞選考委員並びに委員長を理事会(令和7年6月)において決定し委嘱する。

ロ. 選考要領の決定(令和7年10月)

選考方針、選考方法、評価法について、第9回選考委員長が選考要領を定める。

ハ. 推薦書の書類整理(令和8年1月～2月)事務局による申請書の整理及び選考委員長との事前協議。

ニ. 第1次書類審査(令和8年3月)各選考委員による書類審査、評価表の提出。

ホ. 選考委員会の開催(令和8年5月)選考委員会を開催し複数の受賞候補者を選考し理事会へ答申する。

②受賞者の最終決定(令和8年6月 理事会)

選考委員会から提出された受賞候補者から理事会において受賞者を決定する。

3. シンポジウム・講演会・会員セミナーの開催

財団のネットワークを生かし、食品産業や農業に関連したテーマの講演会やセミナーを開催し最新の情報提供を行う。

(1)講演会 予定テーマ「新潟の食料産業の先駆者達」—その偉業と未来へメッセージ—

①齊藤昭三(新潟米菓) ②並河盛資(コシヒカリ) ③嶋 梯司(新潟清酒)

(2)食と農のシンポジウム 予定テーマ「コメをめぐる現状と将来戦略」

(3)講演会 会員と市民向けの公開講演会(WEB)

食の新潟国際賞受賞者から受賞後の研究活動と成果について講演

(予定講師) 村上 優氏(第6回 大賞受賞者) ペシャワール会 会長

「中村哲の夢をつなぎ未来を創る」—最新報告—

(4)新春特別講演会(新年を迎えての食と農の展望をテーマにした講演会)

シンポジウム形式を検討 テーマ 未定(令和8年2月 開催予定)



4. 佐野藤三郎氏の顕彰及び広報活動

新潟市名誉市民章を受章した佐野藤三郎氏の顕彰活動を佐野藤三郎顕彰委員会と協力して顕彰事業を実施する。

主要事業

(1)セミナー(市民向け)の開催協力

(2)佐野氏ゆかりの地を巡るバスツアー

(3)佐野藤三郎氏のマンガの新潟市内学校への配布贈呈事業

(4)小学生を対象とした佐野藤三郎氏の認知拡大事業

「佐野藤三郎マンガ感想文コンクール(仮称)」の開催

新潟市名誉市民、佐野藤三郎氏の業績を知ってもらい、食の新潟国際賞財団への認知を広げるため、新潟市内の小学生を対象に「まんが佐野藤三郎」感想文コンクールを実施する。夏休みに募集し優秀作品を表彰する。

(5)マスコミ等との共同・協賛企画事業

(6)中国ジャムス大学「新潟館」の展示物入れ替え事業とジャムス大学との交流

佐野藤三郎氏の中国における活動や功績と食の新潟国際賞の紹介、および新潟県産業・観光のPRを目的で開設された、ジャムス大学外国語学院内の展示室「新潟館」での展示物の新規展示と展示品の入れ替えによる展示の充実を行う。併せてジャムス大学との交流を図る。

「新潟館」は財団訪中団の派遣交流により中国黒竜江省政府とジャムス大学の協力により、2018年第3次財団訪中団派遣時に展示館が開館された。

主な展示内容

①佐野藤三郎氏と三江平原開発協力活動の紹介(パネル・パンフレット)

②食の新潟国際賞財団および国際賞の紹介(ビデオ・パンフレット)

③新潟県・新潟市の観光紹介(ビデオ・パンフレット)

④新潟県内の産業のサンプル及びパンフレットの展示紹介



令和7年度活動計画（令和7年5月1日～令和8年4月30日）

5. 食料産業分野の人材育成と大学との連携促進事業

「にいがた食と農の未来」学生ビジョンコンテスト2025

県内学生の食と農への関心高め、県内食料産業の将来を担う人材育成を図り併せて財団の周知拡大と県内大学との連携を図る。

学生(大学・大学院・専門学校)を対象とする「新潟の食品産業・農業の活性化・振興」をテーマにしたビジョン発表コンテストを開催する。

- | | | |
|---------|--|----------|
| (1)開催時期 | 参加エントリー締め切り | 6月20日(金) |
| | 参加者オリエンテーション | 6月28日(土) |
| | 第1次審査(書類) | 10月初旬 |
| | 決勝大会・表彰式 | 11月8日(土) |
| (2)表彰 | 最優秀賞(1)優秀賞(2)協賛社特別賞他(7)(予定) | |
| (3)協賛企業 | 亀田製菓(株)、(株)ブルボン、一正蒲鉾(株)、サトウ食品(株)、(株)栗山米菓、(株)エイケイ | |



○令和6年度(実績)「学生ビジョンコンテスト2024」

- | | |
|-------------|----------------------------|
| 参加応募チーム | 21チーム(15大学、4大学院、1工業高等専門学校) |
| 最優秀賞(グランプリ) | 長岡技術科学大学・新潟県立海洋高等学校(合同チーム) |
| 優秀賞 | 新潟食料農業大学、新潟大学 |



6. 地域貢献事業(情報発信・交流)

「SDGs」への理解と活動を推進するための講演会やセミナーを企画し、寄付者や賛助会員、協力関係者への情報提供を行うとともに、一般公開し地域経済振興への貢献を図る。

(1)食の新潟国際賞受賞者特別講演会の開催(再掲)

国際賞受賞者を講師とする特別講演を開催し国際賞の周知と推薦募集の拡大を図る。

(2)SDGsの活動促進事業

SDGsへの理解と浸透を促進するため、(一社)地域創生プラットフォームSDGsにいがた(事務局新潟日报社)と連携して事業への参加と協力を行う。

①SDGsに関するシンポジウム・セミナーへの参加と協力

②「第6回新潟SDGsアワード」での食の新潟国際賞財団特別賞贈呈

県内の食と農分野で「SDGs」活動に積極的に取り組み大きな成果をあげその活動が他の模範となる企業・団体に「食の新潟国際賞財団特別賞」を設け贈呈する。

○第5回(令和6年度)結果 令和7年2月16日表彰式

- | | |
|--------------|------------------------------|
| 大賞 | NPO法人はねうまネットワーク・妙高はねうま複業協同組合 |
| | 「移住者受け入れシステムと地元企業とのマッチング」 |
| 食の新潟国際賞財団特別賞 | C・skitchen / rukoto(新潟市東区) |
| | 「農福食が繋がってつくるおいしい循環プロジェクト」 |



7. 食と花の世界フォーラム組織委員会への参加

食と花の世界フォーラム組織委員会へ参加し協力連携を強化し、共同事業に参画する。

(1)「フードメッセ in にいがた 2025」(11月12日～14日)

(2)新潟市食文化創造都市推進プロジェクト事業協力

8. 「新潟フードテックタウン構想」事業への協力

オイシックス・ラ・大地株式会社とNSGグループが発起人となって進めている、新潟県を拠点としてフードテックのクラスターを形成することで地域産業の活性化を図る「新潟フードテックタウン構想」事業に協力する。

公益財団法人 食の新潟国際賞財団

創立15周年 記念講演会・祝賀交流会 2025年3月26日

公益財団法人 食の新潟国際賞財団の創立15周年を記念する講演会と祝賀交流会が3月26日に新潟市のANAクラウンプラザホテルで開催され、新潟県知事、新潟市長をはじめ110名が出席して、食の新潟国際賞財団の創立15周年を祝いました。



創立15周年記念講演会では、財団創立の際にご助言ご尽力をいただいた、武田アンド・アソシエイツ代表の武田修三郎氏が「創立15周年へのメッセージ」を述べました。

記念講演では、食の新潟国際賞財団の特別顧問でファウンダーの古泉肇氏が「新潟から食と農を世界へ」と題して講演し、創立当時から現在につながる、食の新潟国際賞の原点と想いを語られました。

続いて、食の新潟国際賞の選考委員長を第1回から務められている唐木英明氏が「食の安全の現状と未来を考える」と題して講演され、この中で唐木氏は、食の新潟国際賞のこれまでの受賞者の、選考方法と選考ジャンル等について経緯を語られました。

2. 創立15周年へのメッセージ

武田 修三郎 Ph.D.

武田アンド・アソシエイツ 代表
(公財) 食の新潟国際賞財団 相談役



財団創設時から貴重なご助言をいただいていた武田氏は、現在の世界情勢、とりわけ米国のトランプ政権が目指す方向について解説され、そうした状況の中で「食の新潟国際賞」が目指すべき50年後の役割と重要性を強調されました。

3. 記念講演(1)「新潟から食と農を世界へ」－食の新潟国際賞の原点と想い－

古泉 肇 氏

(公財) 古泉財団 代表理事、(公財) 食の新潟国際賞財団 特別顧問・ファウンダー



古泉氏は15周年を機に、改めて食の新潟国際賞財団創設の経緯と理念を整理して説明されました。なぜ国際賞であることにこだわったのか。賞の冠になぜ佐野藤三郎氏を頂いたのか。理念とテーマはどのようにして決まったのか等々、ご自身の強い思いと、当時の新潟をめぐる時代状況等が伝わってきました。さらに印象深い受賞者や、財団を支えていただいた方々への感謝を述べられました。そして、新潟の先人たちが、食を得るために重ねてきた命がけの努力「命がけの遺伝子」こそが、食の危機が世界的に進行する中で、継承されるべき新潟発のメッセージであると強調されました。

4. 記念講演(2)「食の安全の現状と未来を考える」－世界と日本－

唐木 英明 氏

食の信頼向上をめざす会 代表、(公財) 食の新潟国際賞財団 評議員・選考委員長



唐木氏はご自身と「食の新潟国際賞財団」の関わりと、選考の観点として「食料に関わる問題」に農業、人口、環境などの要素はどのように影響しあって、人類の歴史は進んできたのか、どのような課題が発生したのかを分かりやすく解説されました。その上で「食の新潟国際賞」の選考基準と対象分野などを説明され、これまでのグランプリを受賞した11名は、どのような受賞項目で受賞に至ったのかを整理していただきました。そして、優れた受賞者を決定するには何よりも多くの優れた候補者を推薦していただくこと、科学的根拠に基づいて選考がなされることの重要性を強調されました。

「新潟市みどりの農業推進プロジェクト」～ J-クレジット農業分野 水田活用による脱炭素の取り組み ～

三阪 史也 氏

新潟市農林水産部長

記念講演に先立ち新潟市が推進する「水田を活用するJ-クレジット事業」についての説明が三阪史也部長からあり、環境問題への認識を進めることと、同事業への新潟の企業の参加と協力を要請しました。



創立15周年 記念祝賀交流会 2025年3月26日

記念講演に続いて、創立15周年記念祝賀交流会が開催され、花角新潟県知事、中原新潟市長はじめ各界のご来賓や財団役員、財団創立から今まで支えていただいている寄付者や賛助会員、そして、国際賞の受賞者などが出席されました。食の新潟国際賞は次回が第9回の表彰式となりますが、3年後の第10回の表彰式とさらにその先へ向けて一層の充実を図っていくために心を新たにしていました。

1. 開演ご挨拶 (公財)食の新潟国際賞財団 理事長 池田 弘 氏
2. ご来賓祝辞 新潟県知事 花角 英世 様
新潟市長 中原 八一 様
3. 乾杯 新潟市議会議長 皆川 英二 様
4. お開き (学)新潟青陵学園 理事長 篠田 昭 様



ご挨拶 理事長 池田 弘 氏

「食の新潟国際賞」は8回を重ね、受賞者は32名を数え世界に広がりつつあります。日本国内では「食」を対象分野とした唯一の国際賞です。今日の世界は、各地で止まない武力紛争や気候変動・自然災害等の影響で7億3千万人余りの人が飢餓に苦しんでいます。まさに、国際賞のテーマである「食と生命(いのち)」は世界的な重要テーマであり、「食の新潟国際賞」の創設は益々高く評価されるものと確信しています。



ご祝辞 新潟県知事 花角 英世 様

公益財団法人「食の新潟国際賞財団」が創立15周年を迎えられたことを心からお祝い申し上げます。ご承知の通り新潟県は日本の食糧基地であり、この新潟から国際的な食の顕彰制度を立ち上げたということは誠にすばらしいことであります。発展途上国をはじめ、国際紛争や気候変動への対応等により、食糧問題に対する関心や、食糧の需要は益々高まっています。新潟県としても今後、食の新潟国際賞財団の活動を応援して参りたい。今後ますますの発展を期待しております。



ご祝辞 新潟市長 中原 八一 様

創立15周年を心からお祝い申し上げます。昨年、賞名の冠となっている佐野藤三郎氏を新潟市名誉市民に選定させていただきました。これを機に、改めて佐野氏の信念と情熱を受け継ぎ、新潟市の総合計画の都市像である「田園の恵みを感じながら 心豊かに暮らせる 日本海拠点都市」を目指し、持続可能な農業の実現に取り組んでまいります。国際賞の創設にご尽力された食品関連産業や団体の皆様、精力的に活動されてきた貴財団に、改めて心から敬意を表します。



● 特別会員

亀田製菓(株)
一正蒲鉾(株)
(株)第四北越銀行
(株)新潟日報社
亀田商工会議所
にいがた22の会
オイシックス・ラ・大地(株)

(株)ブルボン
サトウ食品(株)
(株)栗山米菓
(株)新宣
(株)新潟クボタ
(株)日本食糧新聞社

(学)新潟総合学園
新潟県農業協同組合中央会
亀田郷土地改良区
(株)エイケイ
NST新潟総合テレビ
五十嵐建設工業(株)

● 正会員

新潟県信用組合
(株)DI Palette
(株)本間組
石本酒造(株)
(株)ミカサ
神山物産(株)
ハセガワ化成工業(株)
藤屋段ボール(株)
(株)タケショー
BSN新潟放送
新潟陸運(株)
(株)新潟食品運輸
月島食品工業(株)
(株)ニッポン関東支店
日本甜菜製糖(株)
(株)鳥梅

新潟工科大学産学交流会
(株)キタック
北越工業(株)
丸榮製粉(株)
鍋林(株)ヘルスフーズ事業部
TeNYテレビ新潟放送網
(株)栗田工務店
三和薬品(株)
松田産業(株)
セツカートン(株)新潟工場
東邦産業(株)
麒麟山酒造(株)
(株)加島屋
(株)日本フードリンク
(株)ディモルギア
UX新潟テレビ21

イカリ消毒(株)
新潟工科大学
(株)田中組
(医)愛仁会 亀田第一病院
(株)ひらせいホームセンター
ワタキューセイモア(株) 新潟営業所
(株)エヌエスアイ
(株)トップライズ
(株)ウオシヨク
(株)ヤマダ
(株)新潟国際貿易ターミナル
八海醸造(株)
(株)荏原製作所 北陸支社
(株)せいだ
新潟医療生活協同組合

● 個人会員

古泉 肇	藤島 安之	和田 充彦	廣瀬 利雄	山口 勉	高橋 常孝	田村 敏郎	杉本 克己
近藤 鴻	大川 秀雄	大倉 正寿	吉岡 謙一	坂田 武利	門脇 基二	大谷 勝男	佐藤 久栄
阿部 徳威	田中 作一	佐藤 和雄	大沢 一衛	佐藤 勉	大島 千春	野上 敏	渡辺 昭雄
槇坂 文晴	清水 良一	五十嵐 源一	新保 房機	古泉 榮三	佐藤 純	倉嶋 則昭	大越 斎
野口 正晴	酒井 定勝	松本 裕志	當野 篤	久保田 紳一	河瀬 三千夫	和澄 孝男	五十嵐 修
望月 健三郎	山田 雄治	鈴木 正二	竹石 松次	古泉 幸代	大森 ゆかり	高橋 慶三	阿部 昭一
渡邊 信也	大崎 新一	坂井 俊一	鈴木 伸作	佐藤 銀治郎	加藤 寿一	石附 由美子	斎藤 幸広
田辺 俊文	小田 静二	渡邊 徹	栗田 浩	栗田 朋子	阿部 文仁	高尾 茂典	五十嵐 豊
古泉 幸一	加藤 純子	高倉 広利	清水 泰成	阿部 愛子	宮口 澄子	五十嵐 康子	五十嵐 早苗
高橋 征男	高橋 克郎	田村 泰生	山崎 尉生	中村 雪絵	村山 浩太郎	稲葉 晋	川崎 千春
秋山 正之	松川 忠史	濱野 剛	小川 善弘	池田 祥護	星野 幸三	糸満 盛人	北垣 大介
小林 哲也	岡田 茂久	遠山 幸男	小野 隆樹	大橋 祐貴	前田 穰	桐原 隆晃	長井 基樹
岸田 良満	中村 健一	小林 宏志	柳澤 敏郎	遠藤 俊介	葉葦 正幸	津島 章彦	舟崎 義朗
小川 陽一	大日方 聡	宮下 好文	坂田 浩一	田中 雅史	藤間 佑輔	品田 卓也	渋谷 政道
村山 雄亮	北爪 文義	近藤 正	高橋 佑	荒井 弘美	重泉 篤史	本間 康弘	中野 克之
原島 徹	最上 正人	石田 勇介	佐藤 正尚	下條 幸二	廣川 正通	小谷 尚志	田中 弼
佐藤 浩晃	村山 和恵	小林 達	長谷川 久晃	酒井 栄一郎	佐藤 聡	小林 守	阿部 欣也
杉谷 浩一	榊原 由貴	金田 季之	宮島 泰	高崎 俊哉	高橋 裕作	小平 勝志	藤田 正明
池田 一史	宮嶋 一博	駒形 正明	藤井 大三郎	阿部 貴美	大沼 成勝	丸山 智史	岡田 龍
小野 隆樹	田邊 威	高橋 大介	伊藤 雅明	秋堂 春美	長谷川 克弥	田中 湖雄	牧 利幸
伊藤 正弘	本間 春治	早川 重男	樋口 正仁	伊積 豊	小林 稔	吉田 たかし	山本 善政
小島 隆	高橋 昭博	高橋 眞代	峰尾 昌明	大森 武士	鈴木 春次	徳橋 隆行	